

確かな学力・豊かな心・健やかな体 思永のココロ (子心)

文責：星加 浩司

電話番号の秘密

「最強最後の学習法～後藤武士より～」

無作為の10ケタ数字の電話番号を、たった4ケタの歴史年号すら覚えられない者が何で覚えられるのか？きっと暗記の秘密が隠されているはずだ。

自宅の電話番号。覚える必要は？もちろんある。というか、覚えていないと不自由する。そもそも暗記で1番大事なものは必要性だ。しかも、その必要性を本人が自覚していることが何より重要だ。～中略～



では、何故普段出来ないのか？要するに、「必ず覚えなきゃいけない」という危機感やモチベーションがないからだ。つまり、暗記していなければ自分が不利益を被ること、そしてそれを本人が認識していること。更には、暗記することによって利益があるということを知っていること。これがひとつ目の鍵である。

ところで、自分の家の電話番号でも覚えていない時がある。それが暗記に隠されたもうひとつの秘密に繋がっている。それは、引っ越ししたばかりなどで電話番号が変わった時である。この時は自宅の電話番号でも覚えていないことが多い。ところが、それもいつの間にか覚えてしまう。何故だろう？意識的に覚える努力をしていなくても覚えてしまうのだから…、このことは暗記にとって大きな謎だ。

実はすごくたわいもない答えが待っている。それは、「反復！」これに尽きる！引っ越ししたばかりは様々な届けを出したりする。電話番号が変わればその事をあちこちに連絡する。その度に新しい番号を見直すことになる。見直すだけでなく自分の手で書き、口で発声して相手に伝える。知らず知らずのうちに反復がなされているのだ。

似たケースで、小中学校のクラス替えがある。最初は顔と名前が一致しない。だが、クラス替え当初の行事を通じて、1学期が終わる頃には誰もがクラスメートの名前くらいは自然にマスターしている。それもこれも「繰り返し」つまり「反復」がなせる技である。

暗記にとって必要なのは、ひとつは「暗記しなければならぬ」という必然性の自覚。もうひとつは「反復」つまり繰り返しの回数なのである。暗記は時間を要するというが、とんでもない誤解である。時間なんてどうだっていいのだ。何時間かけようかその場では覚えていてもすぐに忘れることができる。問題は時間ではなく繰り返しの回数なのだ…。意図的に反復の量を増やしてやるのだ。難しいことはひとつもない。暗記の回数を増やすだけだから。その代わりに、1回当たりの暗記に要する時間を大幅に削る。いろいろ述べるが要はここに尽きる。時間ではなく回数を増やす。

例を挙げた方が分かりやすいだろう。中学校3年間で覚えなければならない英語の動詞は全部で150個程度。このスペルと意味、それに変化を全て覚えてしまおう。あなたはどれくらいの時間が必要だと思うだろうか？なんとと言っても動詞は英語の主役である。その全てということは要するに中学校で習う英語の半分をマスターするというようなもの。単純計算すれば学校では約200時間分の学習に相当する。

仮にこれを1日で覚えられるとしたらどうだろうか？これはかなりおいしいことである。「あり得ない」とおっしゃるだろう。あり得ないかどうかはやってみれば分かることである。どうせ実験するなら効果もおいしいほうがいい。それでは中学3年分の動詞の暗記。早速始めよう。



地域より



金田公園の管理事務所より、5～6号棟において、生徒がたむろし、喫煙やゴミを散らかしているとのこと。また、マックスバリューストアより駐車場がたむろしてゴミを散らかしているとのこと…。

校長先生のお話を思い返してください！！ルールとマナーを自覚してほしいと思います。